

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370128

研究課題名(和文)バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究

研究課題名(英文)Study of the Correspondence between Yukio Yashiro and Bernard Berenson

研究代表者

越川 倫明 (Koshikawa, Michiaki)

東京藝術大学・美術学部・教授

研究者番号：60178259

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：これまで未公開であった矢代幸雄とバーナード・ベレンソンの現存する往復書簡を調査・整理し、各書簡史料の年代の確定、書簡に登場する人物に関する調査を行なった。さらに、計114通の英文書簡をすべて翻刻し、ヴィッラ・イ・タッティ(ハーヴァード大学附属ルネサンス研究所)のホームページ上で公開した。さらに、全書簡の和訳を行ない、邦訳書の刊行が可能となるまで準備をすすめた。矢代とベレンソンの交友は、前者が1920年代前半の滞欧時にベレンソンに師事したことに始まるが、我が国における美術史学の発展にとってきわめて重要なエピソードである。本研究は二人の交友を記録した書簡を初めて公開することを可能にした。

研究成果の概要(英文)：In this research project we examined the unpublished correspondence between Yukio Yashiro and Bernard Berenson. We have determined plausible dates for the undated Yashiro letters and gathered information on numerous persons mentioned in the letters. Then we transcribed all the letters in English and published them in the online exhibition posted in the website of Villa I Tatti - Harvard University Center for Italian Renaissance Studies. Further, we have translated all the letters into Japanese, making them ready for book-form publication in Japanese. The friendship between Yashiro and Berenson had a decisive importance for the methodological development of art history in Japan, and the present research project has made possible for the first time the publication of the original correspondence of these distinguished scholars.

研究分野：西洋美術史

キーワード：西洋美術史 日本近代美術史学史 イタリア・ルネサンス美術 東洋美術

### 1. 研究開始当初の背景

日米の著名な美術史家であり、師弟関係にあったバーナード・ベレンソン(1865 - 1959)と矢代幸雄(1890 - 1975)の未公開の往復書簡(手書き、英語)は、現在イタリアと日本に原本が保管されているが、これまでその内容が研究され、翻刻・公刊されることはなかった。その理由は、ベレンソンの筆跡を解読することの困難があり、また矢代書簡の大半に年代が記されておらず、整理が不可能だったことも一因である。この往復書簡を整理・公刊するためには、集中的な調査が必要とされていた。

矢代幸雄は旧制第一高等学校を卒業後、東京帝国大学で英文学を学んだ。卒業後は東京美術学校(現東京藝術大学美術学部)で美術史学を講じ、1921年にルネサンス美術研究を目的として英国に留学、同年秋にイタリアへ移り、当時ヴィツラ・イ・タッティを拠点としていたバーナード・ベレンソンに師事した。1925年に英文の大著『サンドロ・ボッティチェリ』をロンドンで刊行して同年に帰国し、やがて矢代は自身がルネサンス美術研究のために学んだ方法で東洋美術の調査研究を行なうことが自らの使命であると考え、1930年に開所した美術研究所(現東京文化財研究所)でその実践に努めた。矢代は西洋の美術史学の調査研究方法を日本に紹介する一方、欧米に日本東洋美術作品を紹介する役割も担っており、1965年には東洋の文化について広く世界に広めることに貢献した者を顕彰するフリーア・メダルを米国フリーア美術館から授与されている。

このように、矢代とベレンソンの交流は、我が国の美術史学の発展史の上で最も重要なエピソードのひとつであるにもかかわらず、これまで両者の往復書簡はまったく公刊されてこなかったのである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、現存する計114通の矢代とベレンソンの往復書簡を正確に書き起こし、内容を読解・翻訳し、両者の交流の状況を解明するとともに、我が国における美術史研究の方法論および文化財行政の展開に対して、二人の交流が有した意義を明らかにすることを目的とする。本研究の遂行には、フィレンツェのヴィツラ・イ・タッティ、ハーヴァード大学附属ルネサンス研究所(以下、VITと略す)の協力が不可欠であるため、同研究所の学術プログラム担当副所長ジョナサン・ネルソン氏とアーカイブ担当のイラリア・デッラ・モニカ氏を研究協力者として調査を進めることとした。

### 3. 研究の方法

本研究の具体的な実施事項は、(1)全書簡史料の写真撮影(VIT古文書室および神奈川県立近代美術館)、(2)手書き書簡の英文テキストの正確な書き起こし、(3)年代不

詳の書簡史料の文脈・位置づけの検討、(4)書簡史料全部の和訳と注釈、(5)書簡史料に関連した諸調査・文献研究および論文執筆、(6)公刊に向けた準備と調整、である。

書簡の現物調査は、神奈川県立近代美術館およびフィレンツェのVITで実施した。矢代書簡の書き起こしについては、主として日本側で作業しつつ、VIT側の監修を受けて不明点の解決を行なった。フィレンツェで行なった矢代書簡の実見調査では、書きおこしの不明箇所をまとめて確認した。

ベレンソン書簡については、VIT側が担当して書き起こしを行ない、特にベレンソン晩年の書簡については、筆跡がかなり解読しにくいものであるため、VIT側・日本側で随時情報を交換しながら、正確な解読をめざした。書き起こしの結果に基づき、年代不明の書簡の日付を記述内容に照らして推測・確定していった。

書き起こし作業の完了した書簡史料から、順次、関連する歴史的情報の収集を行なうとともに、和訳の作業を開始した。必要に応じて随時訳文の改訂を行なった。和訳の作業は、越川・山梨に研究協力者の小林・深田・中村を加え、この5名を中心に作業を進めた。

### 4. 研究成果

以上の目的・方法に基づいて研究を行なった結果、以下の成果が得られた。

(1)神奈川県立近代美術館に寄託されているベレンソン書簡の全部について、高精細のデジタル画像を入手し、所有者の同意を得たうえでVITと共有し、研究のベースとした。一方、VITが所有する矢代書簡については、コピーはすべて入手したものの、著作権上の問題から画像の入手は一部にとどめている。

(2)上記の収集資料に基づいて、年代不詳の矢代書簡のほぼすべてについて、年代を確定することができ、現存する全書簡の時系列を整理することができた。続いて、全書簡史料の翻刻(英文)を完成し、それらをVITのウェブサイト上で「オンライン資料展」のかたちで公開した。この展覧会は、アメリカ大使館の後援を得て、「Yashiro and Berenson: Art History between Japan and Italy(矢代とベレンソン:日本とイタリアをつなぐ美術史)」と題して2015年6月30日に公開した(<http://yashiro.itatti.harvard.edu/>)。

同展のために、研究代表者と研究分担者はそれぞれ矢代の業績に関わる英文原稿を執筆し、公刊した。さらに同展には、矢代の初期の大著『ボッティチェリ』(英文、ロンドン、1925年)の全文、矢代の自伝的著作『私の美術遍歴』の一部の英訳が掲載され、さらに何篇かの関連する研究論文が再録された。このオンライン展は完全なオープンアクセスであり、現在もそのまま公開されている。

(3) 2016年1月には、研究集会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」を、西洋美術振興財団の助成を得て、東京文化財研究所を会場に開催した。この研究会では、5名の発表者(ジョナサン・ネルソン、山梨絵美子、越川倫明、高岸輝、塚本磨充)による口頭研究発表と活発な議論が行なわれた。この研究会で議論されたトピックのひとつは、矢代の初期の著作における大胆な部分写真の使用が、どの程度まで日本独自の伝統に基づくのかという問題であった。(ネルソン氏がこの問題をさらに発展させた論考は、ロンドン大学より近く刊行される予定である。)また高岸氏と塚本氏は、かつて矢代が館長を務めた大和文華館での勤務経験をもち、それぞれ日本美術、中国美術研究の立場から、矢代の東洋美術評価における傾向性について興味深い指摘を行なった。

(4) 以上の調査研究から、矢代幸雄の歴史的位置づけに関して、新たな視座が明らかになってきたといえる。従来、矢代幸雄によるベレンソンの手法の摂取は、作品観察と造形比較に基づく鑑定手法の導入として評価されるのが一般的であるが、そうした図式的理解は一面にすぎず、矢代とベレンソンが共有した美の自律性に対する審美主義的信念や、時代の政治的状況を視野に入れた趣味の問題を、歴史的視点から評価することの重要性が明らかになったといえる。また、両者の往復書簡は、第二次大戦をはさんで続けられたことから、戦前と戦後における矢代の研究者としての、あるいは美術行政官としての立場や思想の変化について考察するための、有用な基礎資料である事実も浮かび上がってきたのである。

(5) 英文で翻刻された書簡全文に基づき、2016年度内に和訳の作業を終了することができた。これらの訳稿に基づき、2018年度内を目標に往復書簡の邦訳版を刊行する予定である。この邦訳書には、往復書簡全般の解説のほか、詳細な訳注と、関連テーマの研究論文を収録する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計4件)

越川 倫明、The Publisher of the Woodcut Triumph of the Christian Knight after Battista Franco, Aspects of Problems in Western Art History, 査読無、vol. 14, 2016, 107-114

山梨 絵美子、Yashiro Yukio and the Institute of Art Research: Realizing the Goal of Introducing Berenson's Methodology to Japan, 査読無、

published in the online exhibition Yashiro and Berenson: Art History between Japan and Italy, Villa I Tatti, 2015

越川 倫明、The Yashiro-Berenson Correspondence, 査読無、published in the online exhibition Yashiro and Berenson: Art History between Japan and Italy, Villa I Tatti, 2015

越川 倫明、「矢代幸雄とバーナード・ベレンソン: 往復書簡(1923-1959)の概要」, Aspects of Problems in Western Art History, 査読無、vol. 13, 2015, 189-198

#### [学会発表](計4件)

越川 倫明、「矢代幸雄『受胎告知』を再読する」, 研究集会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」, 東京文化財研究所, 2016.1.13

山梨 絵美子、「ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点」, 研究集会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」, 東京文化財研究所, 2016.1.13

山梨 絵美子、「矢代幸雄と原三溪」, 横浜美術館, 2015.11.14

越川 倫明、Andrea Schiavone, Battista Franco and the Grimani Family: On the Historical Context of the Modena Triptych and its Visual Sources, International Conference: El Greco. The Cretan Years, Historical Museum of Crete, Heraklion, 2014.6.22

#### [図書](計4件)

越川 倫明 他、国立新美術館/国立国際美術館、「アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」(展覧会カタログ) 2016、235

森田 義之、越川 倫明 他、共監訳、中央公論美術出版、「ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第四巻、2016、441

越川 倫明 他、東京富士美術館/京都文化博物館/宮城県美術館、「レオナルド・ダ・ヴィンチと「アンギアーリの戦い」展 日本初公開「タヴォラ・ドーリア」の謎」(展覧会カタログ) 2015、186

森田 義之、越川 倫明 他、共監訳、中央公論美術出版、「ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第三巻、2015、547

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

Yashiro and Berenson: Art History between  
Japan and Italy  
(<http://yashiro.itatti.harvard.edu/>)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

越川 倫明 (KOSHIKAWA, Michiaki)  
東京藝術大学・美術学部・教授  
研究者番号：60178259

##### (2) 研究分担者

山梨 絵美子 (YAMANASHI, Emiko)  
東京文化財研究所・副所長  
研究者番号：30170575

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

ジョナサン・ネルソン (NELSON, Jonathan)  
ヴィッラ・イ・タッティ (ハーヴァード大学  
付属ルネサンス研究所)・前副所長

イラリア・デッラ・モニカ (DELLA MONICA,  
Ilaria)

ヴィッラ・イ・タッティ (ハーヴァード大学  
付属ルネサンス研究所)・アーカイブ担当

中村 明子 (NAKAMURA, Akiko)  
大妻女子大学・非常勤講師

小林 亜起子 (KOBAYASHI, Akiko)  
東京藝術大学・非常勤講師

深田 麻里亜 (FUKADA, Maria)  
東京藝術大学・非常勤講師